

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月14日

協議会名： 伊賀市地域公共交通活性化再生協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
伊賀市地域公共交通活性化再生協議会	友生線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法定協議会で事業の進捗管理を行いながら、各施策を進めた。</li> <li>・沿線地域へ利用状況等の情報提供や、意見交換を行い、スクール混乗など路線の効率化の検討を行った。</li> <li>・毎年、通年で実施している伊賀鉄道の通学定期券購入費助成事業に加え、伊賀鉄道以外の公共交通通学定期利用者を対象に、令和6年10月～令和7年9月分の通学定期購入費の1/2を助成した。</li> <li>・令和6年10月1日から12月31日の3ヵ月を「公共交通機関の活性化と維持・存続のため、市民・企業に対して、ポスターやチラシを作成し、企業への訪問やイベント会場・商業施設等での街頭啓発などの取組を実施した。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施できている。	B <b>【目標】</b> (1)平均乗車密度1.9人以上 (2)収支率34%以上 (3)乗客1人当たり市負担520円以下 <b>【結果】</b> (1)平均乗車密度1.4人 (2)収支率37.7% (3)乗客1人当たり市負担758円 <b>【考察】</b> 収支率については、目標を達成した。運行の効率化により、一定の効果があがっていると考えられる。 一方で、平均乗車密度及び乗客1人当たり市負担額は目標に達しておらず、利用率は依然低い。今後も引き続き利用促進啓発を図っていく必要があると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、沿線地域と共に、地域のニーズに合った交通手段を検討して行く。</li> <li>・公共交通機関利用促進期間の取組や、伊賀線まつりといったイベントなどの機会を捉えて利用促進啓発を進める。</li> <li>・例年実施している伊賀鉄道通学利用者を対象とした定期券購入費助成事業に加え、他交通機関にも同事業を拡充した助成事業を、今後も財源の確保を図りながら、幅広い助成の実施を検討する。</li> </ul>

伊賀市地域公共交通活性化再生協議会	西山・島ヶ原線	<p>・法定協議会で事業の進捗管理を行いながら、各施策を進めた。</p> <p>・沿線地域へ利用状況等の情報提供や意見交換を行い、地域のニーズに合った路線の検討を行った。</p> <p>・島ヶ原地域とともに、デマンド交通の利用状況や効果を検証・分析を行った。</p> <p>・毎年、通年で実施している伊賀鉄道の通学定期券購入費助成事業に加え、伊賀鉄道以外の公共交通通学定期利用者を対象に、令和6年10月～令和7年9月分の通学定期購入費の1/2を助成した。</p> <p>・令和6年10月1日から12月31日の3ヵ月を「公共交通利用促進期間」とし、公共交通機関の活性化と維持・存続のため、市民・企業に対して、ポスターやチラシを作成し、企業への訪問やイベント会場・商業施設等での街頭啓発などの取組を実施した。</p>	A 計画通り事業は適切に実施できている。	C <p>【目標】</p> <p>(1)平均乗車密度1.9人以上</p> <p>(2)収支率34%以上</p> <p>(3)乗客1人当たり市負担520円以下</p> <p>【結果】</p> <p>(1)平均乗車密度0.7人</p> <p>(2)収支率32.1%</p> <p>(3)乗客1人当たり市負担1,357円</p> <p>【考察】</p> <p>すべての指標で目標を達成していない。路線を改編し効率化を図ったが目標に達成しなかった。</p> <p>沿線地域との連携等による運行の適正化や効率化が必要となっている。加えて、今後も引き続き利用促進啓発を図っていく必要があると考える。</p>	<p>・引き続き、沿線地域と共に、地域のニーズに合った交通手段を検討していく。</p> <p>・島ヶ原地域で実証運行を開始したデマンドバスに関係してくることから、実証運行の検証を進め、より地域のニーズに合った路線の運行を、地域と共に検討する。</p> <p>・公共交通利用促進期間の取組や、伊賀線まつりといったイベントなどの機会を捉えて利用促進啓発を進める。</p> <p>・例年実施している伊賀鉄道通学利用者を対象とした定期券購入費助成事業に加え、他交通機関にも同事業を拡充した助成事業を、今後も財源の確保を図りながら、幅広い助成の実施を検討する。</p>
-------------------	---------	--	-------------------------	--	---

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月14日

協議会名:	伊賀市地域公共交通活性化再生協議会
-------	-------------------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統
----------	------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>伊賀市地域公共交通計画において掲げられた基本的な方針、「市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成」および「誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実」に基づき、結節点である上野市駅を中心に、各支所管内の地域拠点や郊外エリアへバス路線を伸ばし、市内を網羅することによって、通勤、通学、買い物、通院等、様々な需要に応じ、市民の暮らしを支える交通網を構築していく。その中では、運行の効率化を図り、持続可能な交通網の構築を目指すとともに、定時定路線型以外の新たな運行形態の導入についても積極的に検討を進める。</p> <p>また、上野市駅では地域間幹線や鉄道路線に接続し、市内他エリアのみならず隣接する名張市等、市外エリアへの通勤・通学需要にも応じた交通体系の構築を目指す。</p> <p>全ての人の移動手段を確保し、沿線の勤務先や障がい者就労支援施設等へのアクセス確保も果たすため、フィーダー系統として友生線および西山・島ヶ原線の運行を進める。</p>
-----------------------------	---

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和8年1月14日

協議会名：伊賀市地域公共交通活性化再生協議会

①事業の結果概要	④事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p><b>【事業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域概況・地域公共交通の現状整理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・上位関連計画の整理</li> <li>・地域概況や地域公共交通の現状の整理</li> </ul> </li> <li>○地域ニーズの把握                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通利用者アンケート調査</li> <li>・市民アンケート調査</li> <li>・地域別住民懇談会の開催</li> <li>・各種事業者(交通、観光関連事業者など)ヒアリング</li> </ul> </li> <li>○計画の進捗状況の評価                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通の課題整理</li> <li>・クロスセクター効果の算出</li> <li>・目標値の達成状況の整理</li> <li>・施策の進捗状況の整理</li> <li>・方針の進捗状況の評価</li> </ul> </li> <li>○協議会の開催</li> <li>○人流データの購入</li> </ul> <p><b>【結果概要】</b> 令和8年3月末までに計画案を策定予定</p>	A 適切に実施されている。	<p><b>【名称】</b> 伊賀市地域公共交通計画策定調査業務</p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 現計画の評価</li> <li>(2) 上位関連計画の整理</li> <li>(3) 地域概況・地域公共交通の現状の整理</li> <li>(4) 地域公共交通の利用実態及び地域ニーズの把握・分析</li> <li>(5) 伊賀市の地域公共交通の課題整理</li> <li>(6) 計画の基本的な方針の検討</li> <li>(7) 目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項の検討</li> <li>(8) 伊賀市地域公共交通活性化再生協議会の運営支援</li> <li>(9) 打合せ協議</li> <li>(10) 計画書(中間案)の作成</li> </ol> <p><b>【実施時期】</b> 令和7年7月～令和8年3月</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月14日

協議会名:	伊賀市地域公共交通活性化再生協議会
-------	-------------------

評価対象事業名:	令和7年度地域公共交通調査事業
----------	-----------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>伊賀市地域公共交通計画は、令和8年度で期間満了となるが、計画の焼き直しではなく、この先10年間を計画期間とする新しい地域公共交通計画を考えている。近年では、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正が行われ、デマンド(予約式)やライドシェア、スクールバス混乗、MaaS、鉄道の再構築事業、地域旅客運送サービス継続事業など目まぐるしく交通体系が変化しており、多種多様な交通体系のなかから、地域の実情に合う交通体系を選択し、新しい将来の地域交通計画を目指している。</p> <p>そして、観光・福祉・教育等他部署との連携の強化を行い、当市の中心市街地や地域の素晴らしい観光資源と、本市の伊賀鉄道・JR・近鉄・路線バス・行政バス・タクシー、福祉バス、スクールバス等の多様な交通手段とを結び、観光の振興や地域の活性化に繋がる交通計画としたい。</p> <p>より地域の実情に合う交通体系を選択するためには、上位関連計画の整理や、地域概況・地域公共交通の現状の整理を行い、人流データの分析や公共交通利用者・市民アンケート調査、地域別住民懇談会の開催などを実施し、より正確な地域のニーズを把握することが必要であることから、計画策定の調査は必要である。</p>
-----------------------------	--